

## こどもの言語発達スクリーニングうちわ の使い方

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 福祉医療・乳幼児委員会

幼児期の言語力は就学後の学習に影響を与えるため、耳鼻咽喉科医がこどもの聴覚と言語発達を評価し、適切に対応する必要があります。福祉医療・乳幼児委員会ではこどもの言語発達を簡単にチェックできるうちわを作成しました。ぜひ毎日の診療でお役立てください。

対象：3歳～未就学児

方法：6つの絵（きりん・ふうせん・ひこうき・たまご・くつした・とけい）がついたうちわの絵図版をこどもに見せながら、裏面に記載されている年齢に応じた項目の検査を行います。ささやき声検査\*はうちわで検者の口元を隠して、喉が振動しない程度の小さなささやき声で行います。

\*ささやき声検査：[日耳鼻 You Tube 「きこえのチェックやってみよう」](#)を参照してください。

**年齢に応じた項目の検査ができなかった場合は要精査とし、小児の言語聴覚の精密検査ができる施設で聴力検査と言語の評価を行ってください。**

### はじめに

質問応答：最初に簡単な質問応答を行う。名前や年齢を質問し、質問の意味を理解できない、答えられない、目が合わないなどを評価する。恥ずかしがったり、機嫌が悪かったりして答えられない場合は別の日にやり直す。名前は「姓は言わず名前だけ答える」「○○ちゃんと通称で答える」、年齢は指で数字を表しても可。

### 3歳～

- A) 言語理解：3つの絵を選んで呼称し、指さして答えさせる。正答が1つ以下なら言語理解が遅れている可能性があり、精査が必要。
- B) 聴覚：口元を隠し、ささやき声で3つの絵を呼称し、指さして答えさせる（ささやき声検査\*）。できなければ普通話声で呼称する。ささやき声では答えられないが、通常話声では答えられるなら軽・中等度難聴を疑い、精査が必要。

### 4歳～

- A) 言語表出：3つの絵を指さして名称を答えさせる。できなければ、言語表出が遅れている可能性があり、精査が必要。
- B) 聴覚：3歳のB)聴覚のささやき声検査を行う。
- C) 言語理解：絵を見せて「空を飛ぶのはどれ？」と質問し、抽象概念の理解を評価する。正答（風船か飛行機）できれば3歳台の言語理解である。できなければ言語発達遅滞を疑い、精査が必要。
- D) 概念理解：絵を見せて「きりんはどこが長い？」と質問し、動物の特徴を表す周辺概念の理解を評価する。答えられなければ、言語発達遅滞を疑い、精査が必要。
- E) 色の識別：風船の絵を指さして、色を答えさせる。赤・青・黄のいずれかが答えられなければ、認知発達の遅れを疑い、精査が必要。3歳頃から色の識別が可能だが、緑はまだ言えない、もしくは青と間違えてもよい。

### 5歳～

- A) 構音：6つの絵を見せて「これは何？」と質問し、名称を答えさせて構音の獲得を評価する。構音の誤りがあれば構音異常を疑い、精査が必要。代表的な構音の誤りの例を示す。

「きりん」→「ちりん（キ→チに置換）」 「きいん（子音の省略）」  
「ふうせん」→「ふうてん（セ→テに置換）」 「ふうしえん（セ→シェに置換）」  
「ひこうき」→「いこうき（子音の省略）」 「ひとうち（コ→トに置換，キ→チに置換）」  
「たまご」→「かまご（タ→カに置換）」 「たまど（ゴ→ドに置換）」  
「くつした」→「くちゆした（ツ→チュに置換）」 「くつちた（シ→チに置換）」  
「とけい」→「とてい（ケ→テに置換）」 「とちえい（ケ→チェに置換）」

B) 聴覚：3歳のB) 聴覚のささやき声検査を行う。

C) 認知：「じゃんけんしよう。最初はグー，ジャンケンポン」をする。できない，しない，できても勝敗が分からない，なら精査が必要。4～5歳頃にじゃんけんの勝敗を理解できるようになる。勝敗の概念が分からなければ認知発達の遅れや言語発達遅滞が疑われる。

### 全年齢

発音が不明瞭で主な養育者には分かるが，園では話を通じない場合には，難聴や鼻咽腔閉鎖不全，未熟構音（いわゆる赤ちゃん言葉）ではない異常構音を疑い，精査が必要。粘膜下口蓋裂などの器質的な病変がないか，難聴が見逃されていないかを評価する。



イラスト：秋田県地方部会 安田雪枝先生

©（一社）日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 「こどもの言語発達スクリーニングうちわ」と説明書は，会員の診療・教育目的で自由にご活用いただけます（改変不可・営利利用不可・無断転載禁止）